

新しい元年を迎えるにあたって

一般財団法人滋賀陸上競技協会
会 長 奥 村 展 三

平成最後の新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては、お健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。平素は、滋賀県の陸上競技の発展のため、いろいろとご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、2巡目の滋賀国体(国民スポーツ大会)開催まであと5年となってまいりました。新聞報道等によりますと、会場の取得が、厳しい状況である、との事が伝えられておりますが、ここは、滋賀県が、しっかりやっていただきたいと考えております。しかし、開催年の1年前には、全国規模のリハーサル大会を開催しなければなりません。そのためには、2年前に公認陸上競技場の認定に合格をいただく。ということは、あと3年で施設の完成を余儀なくされる事となります。陸上競技関係者のみならず、県民の皆さんが心配しているところではありますが、滋賀県をしっかり応援していきレガシーとなる競技場の建設を望むところであります。

ところで、昨年の「福井しあわせ元気国体」の成績は、天皇杯49点21位、皇后杯35点14位
成年男子400mに出場した河内光起(近畿大)選手は46秒43でみごと優勝を致しました。近年にない結果を残してくれました。しかし、5年後に迫る国民スポーツ大会を見据えると、強化に対する課題もたくさんあります。選手の育成、成年の部の選手の獲得、指導者の適性配置、指導者の指導レベルの向上、等々……これらの課題を緊急に解決できる年にしていく所存であります。

また、今年もう一つしなければならないのが、5年計画の審判員の養成であります。新しい審判員の養成も必要ですが、現有審判員の資質の向上と全国大会レベルの研修であります。特に、主任クラスの資質・技術の向上は、各種全国大会での研修に他なりません。

本年は、協会にとりましては、茨の道を行く年となりそうです。3月には31年度予算を作成しなければなりません。30年度の予算に対しまして、全ての事業で10%シーリングを行う予定です。5年後の国体を成功させるためには、本年度中に全ての見直しと全てを新しい元年として出発をしなければなりません。そのためには、皆様方の引き続いての熱いご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様方にとりましてご健勝にお過ごしいただけますようご祈念申し上げ、新しい年のことばといたします。

強化委員会

< 第73回福井しあわせ元気国体 >

10月に行われた福井国体では、天皇杯21位・皇后杯14位と昨年度を大きく上回る結果となりました。成年男子400m河内選手の優勝、成年女子棒高跳3位の南部選手をはじめ、県新記録2種目、県高校記録1種目と10種目での入賞を果たしてくれました。滋賀県代表として29名全員の選手が一丸となって戦ってくれた結果だと

感じています。また、成年少年女子共通 4×100mR においては 23 年ぶりとなる決勝進出を果たし、県新記録 45" 80 での 7 位入賞となりました。6 年後の滋賀国体へ向けて、次年度以降の更なる飛躍に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



< 第3回滋賀陸上フェスティバル(シガリク) >

11月3日(土)スポーツの森陸上競技場において開催しました。福井国体に出場した選手のデモンストレーションを行ったり、国体強化コーチが実際に指導するなどして交流を図りました。イベントには小学5、6年生143名が参加し、陸上教室から各種目測定まで一生懸命取り組んでくれました。ターゲットエイジである参加者の学年が、6年後滋賀国体で少年選手のカテゴリとなります。参加してくれた選手の中から、また滋賀県内の同学年の中から代表選手として活躍してくれることを期待しています。また、11月11日(日)には滋賀レイキッズ陸上教室も行い、シガリク同様元気に楽しく参加してくれました。

【レイキッズ】



【シガリク写真】



< 2018年度冬季強化事業 >

11月23日(金)希望が丘陸上競技場において、第1回冬季統一強化事業を行いました。この事業は、中学・高校・大学・一般までの選手の中から、各カテゴリー別強化指定記録を突破した選手を選考し、次年度に向けて強化を図る事業となっています。選抜・育成選手に選ばれた選手が一同に練習を行い、来年の茨城国体や各全国大会を目指して取り組んでいます。3月までに統一事業(全種目共通)3回、各種目別練習が延べ25回実施します。

【冬季事業】



< 全国都道府県駅伝 >

2019年1月13日(日) 第37回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会(京都)

2:24'30" 35位

(飛田凜香・北川星瑠・大久保楓香・菅原彩乃・豊田理瑚・山根実那子・三浦瞳・中村千春・棚池穂乃香)

2019年1月20日(日) 第24回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会(広島)

2:24'19" 33位

(安原太陽・溜池一太・小澤直人・善田修平・居田優太・安原海晴・中川智春)

全国都道府県駅伝が、女子は京都、男子は広島で開催されました。今年度のトラック・駅伝で総合的に選考された中学・高校・一般(大学生含む)選手が、滋賀県代表として誇りを胸に襷をつなぎました。



普及委員会

小学生男子4×100mリレー 23年ぶりの県新記録！ 51秒17

【長浜陸上教室 北川 裕基さん、阿辻 雅生さん、宮本 遙光さん、さん、松居 慶眞さん】
平成30年度 滋賀県小学生秋季陸上記録会 (10月21日(日) 東近江市布引運動公園陸上競技場)

小学生陸上指導者講習会後の記録会からスタートしたこの大会ですが、今年は短距離種目736名、長距離種目(1000m)369名、跳躍種目260名、投擲種目68名、リレー種目259名、のべ1692名の出場するビッグイベントとなりました。

中でも、男子4×100mリレーでは、長浜陸上教室が、今夏の第34回全国小学生陸上競技交流大会5位の快挙に続き、今大会で23年ぶりの県新記録をマークしました。これは、第11回全国小学生陸上競技交流大会男子4×100mリレーで守山陸上教室(辻、森、上田、中西)が決勝5位になった時(51秒33)以来、長らく破ることのできなかった記録です。記録更新おめでとうございます。

他にも6年男子ジャバリックボール投、5年女子走高跳に新記録が出ました。これをきっかけに、新記録ラッシュを期待したいものです。

【県新記録】

種目	選手氏名	所属	記録
男子4×100mR	北川 裕基 阿辻 雅生 宮本 遙光 松居 慶眞	長浜市陸上教室	51" 17
6年男子 ジャバリックボール投	森口 匠真	ウインドラン陸上	49m67
	大里 煌帝	安土八幡陸上	47m61
	田中 晴大	守山陸上教室	47m51
5年女子走高跳	中島 純鈴	LAKES 甲賀	1m20



高体連

今年の近畿インターハイは、6年ぶりの滋賀県開催となりました。男子では優勝3名、女子優勝1名という結果で、30名のインターハイ選手を送り出すことが出来ました。

東海総体(三重県開催)では、男子200mで草津東高校の澤大地くん(3年)が6位入賞、5000mWで滋賀学園高校の片岡達也くん(3年)が2位入賞を果たしてくれました。ランキングでも上位の選手が揃い、例年よりも多くの入賞を期待しましたが、結果は上記の2名でした。一方で、前述の澤大地くんが、全国大会に先立ち、フィンランド、タンペレで開催されたU-20世界陸上競技選手権に選出されるといった明るい話題もありました。

県駅伝では、男子は滋賀学園高校が3年ぶり11度目の優勝、女子は比叡山高校が、大会最高記録で6年連続8度目の優勝をし、都大路への切符を手に入れました。近畿駅伝では、滋賀学園高校が5位(男子)、比叡山高校が5位(女子)という結果でした。

12月23日に京都で行われた全国駅伝では、滋賀学園高校が2時間9分46秒で32位(男子)、比叡山高校が1時間11分25秒という、全国駅伝での新記録を達成し28位(女子)という結果でした。中でも、2区を走った北川星瑠選手は13分13秒の記録で日本人1位の区間記録という、素晴らしい走りでした。



12月24日～27日には日本陸連U19近畿東海地区強化合宿が、昨年に引き続き滋賀県で行われ、皇子山陸上競技場・立命館大学・びわこ成蹊スポーツ大学・草津東高校で実施いたしました。滋賀県選手はもちろんのこと、この中から東京オリンピックの選手、滋賀県での国体で活躍する選手が出てくることを願ってやみません。



国民体育大会の滋賀県開催も近づき、スポーツへの関心が高まる中、県内各地域、団体等、滋賀県開催に照準をあわせた競技力向上に力を注ぎ始めています。普及活動を通じてタレントの発掘、中学校と連携した中高一貫指導を経て、競技レベルの高い高校生の育成を目指しています。「チーム滋賀」を合い言葉に、滋賀県勢の全国大会での活躍を期待しつつ、今後も応援をよろしくお願ひします。

中体連

平成30年度 全国大会の結果

平成30年度の全国大会では、城山中学校の治武杏祈選手3位入賞し、滋賀県勢としては昨年度に引き続き入賞するという素晴らしい結果をおさめてくれました。しかしながら、昨年の四種目入賞に比べると、やや寂しい結果でもあるといえます。

入賞者以外を見てみると、ここ数年の滋賀県チームを見ていると、冬季から夏季への成長が著しく、チーム滋賀一丸となって強化に当たっている成果が出てきているとも言えます。入賞こそ逃しましたが、守山中学チームが女子4×100mRで準決勝に進出、野洲北中学校の溜池一太選手が3000mにおいて決勝進出を果たすなど、強化の成果はしっかりと出てきているように思います。

今後の課題点は、滋賀県勢としては今年度も短距離種目での全国出場が多く、他種目の強化が必要とされています。今年度の結果を踏まえ、来年度の大阪全中に向けて多種目出場ができるように事業の継続と見直しが求められる。



平成30年度 全国中学駅伝の結果

希望が丘で3年目の開催となりました。

今年度の全国中学駅伝は、京都・桂中学校が男女アベック優勝という素晴らしい結果で幕を閉じた。特に桂中学校女子は5連覇を達成するなど、前人未到の快挙ともいえる。

滋賀県勢の結果を見てみると、女子では水口中学校と甲西中学校が出場。水口中学校は37位、甲西中学校は46位と全国で戦うには力不足であると言わざるを得ない状況にある。男子では瀬田中学校と双葉中学校が出場。瀬田中学校が42位、双葉中学校が48位と、女子同様に厳しい結果となった。しかし、地元選抜

としてオープン出場した野洲北中学校の溜池一太選手が第1区で6位相当となる9'12で快走。オープンレースにおいては水口中学校の伴遼典が9'28で走り、船岡中学校の安原海晴選手9'35と好記録で走っている。

今後の課題点は、男子においては個々の力は上がってきているものの、それぞれが別のチームのため、駅伝競技には結びつくことがない。各チームとしての駅伝普及と強化が大きな課題としてあげられる。また、女子選手については、個人種目で夏の全国大会に出場する選手がいないため、全体的な底上げだけでなく、トップ選手の強化が大きな課題としてあげられる。



マスターズ

第24回滋賀マスターズ陸上競技選手権大会

平成30年8月26日(日)標記大会が甲賀市陸上競技場で開催されました。参加者はマスターズ338名、小学生136名でした。

アジア大会がジャカルタで開催中であり、日本選手の活躍が日々伝えられる中、老若男女が熱戦を繰り広げました。

最高齢の男性は選手宣誓を行った90才の山本昭二さん、女性は80才の宮前美代子さんで、共に短距離選手でした。9月に鳥取県で開催される全国大会を目標に、県外からの参加選手が多く、迎える滋賀県選手は大奮闘をしました。

今後も生涯スポーツをマスターズ陸上が牽引し、陸上競技の輪をますます広げていきたいものです。



第39回全日本マスターズ陸上競技選手権大会



2018年9月22日(土)～24日(月)標記大会がコカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク陸上競技場(鳥取県立布施総合運動公園)で開催されました。参加者は2015名、滋賀県からは50名。最高齢出場選手は男子は富久正二さん(広島101才)女子は北嶋喜笑さん(徳島90才)でした。“爽やかな砂丘の風にマスターズ“のスローガン通り、気持ちよい天候に恵まれた大会でした。

中でもリレー競技の人气が加速し、特にシニア層のレースが盛り上がっていました。各年齢クラスで選手を揃えることは選手層の厚さとレベルアップを物語っています。滋賀県チームも4継、マイル共に入賞し、活躍した若者層に加え、シニア層のクラスでも出場したいものです。

第31回全日本マスターズ駅伝競走大会

3年連続開催された滋賀から愛知への襷が受け継がれ、11月18日(日)愛・地球博記念公園で標記の大会が開催されました。前日から滋賀マスターズ役員、選手団総勢32名はバスで会場入りし、開会式・交流会を経て当日を迎えました。

心地よいポカポカ陽気の秋晴れの中、全国から68チームの参加があり、熱戦が繰り広げられました。滋賀からも駅伝に4チームが参加し、エルダーの部で5位入賞、女子の部で6位入賞という好成績を残すことができました。



(滋賀マスターズだより 第69号より抜粋)

《 編集後記 》

平成最後の国体、福井国体において滋賀県の競技力の高さが示された国体でした。2024年には彦根で国民スポーツ大会として開催される予定です。各カテゴリーにおいて様々な課題がある中で、5年後の国スポへ向けてがんばってもらいたいものです。

次年度は、役員の変更もあり、さらに滋賀県の陸上競技を盛り上げていてもらいたいものです。